

(凡例) ○: 播種 ×: 接木 ~~~~~: 育苗 ◇: 定植 ==: 本ぽ管理 : 收穫

- その他、大塚A処方（大塚ハウス1号、2号）の利用が考えられるが、窒素濃度が高いことやpHの低いこと、カリウムの欠乏症状が見られることがある（次表参照）。

② 培養液の給液

定植直後から2週間程度は、1日1～2回程度与え、株当たり 0.5リットル程度与える。生育に応じて給液回数を増やし、定植後1カ月には約 1.5リットル、最盛期で1日6回に分けて2～2.5リットル程度与える。

給液は、低温期には日中重視、高温期には午前中を重視するため、定植後は10、13時の2回から、生育最盛期は 7、9、11、13、15、17時とする。培地内を安定化させるため、排液が3割程度あるように給液量を設定する。

キュウリ用100倍原液のつくり方			
処方	肥料の種類		原液1リットル当たり
山崎処方 キュウリ1単位	A液	大塚2号	83g
	B液	大塚3号	61g
		5号	5g
		6号	50g
		7号	12g

大塚A処方	A液	大塚1号	150g
1単位（参考）	B液	大塚2号	100g

③ 培養液管理

定植1週間までは水のみを給液し、その後は山崎処方1単位（EC値2.2～2.3mS/cm）を給液する。
収穫中後期は培地内に十分肥料が蓄積していると考えられ、施用濃度を0.8単位程度（EC値 2.0mS/cm）に下げても問題がない。

④ 培養液循環施用

給液タンクの容量が大きいと、タンク内の培養液の成分バランスの乱れが大きくなるため、1日にタンク内の培養液がなくなる容量のタンクにする。
1作終了時には必ず養液を全量交換する。循環当初はタンク内に土壌が戻ってくるため布きれなどで防ぐ。灌水チューブの末端に土壌が詰まることがあるので、詰まった場合は灌水チューブを洗浄する。培養液の給液量が少なかったりすると培地内の土壌のEC値が極度に上がる場合があるので、この場合、水で培地を洗い流す。
養液コントローラで養液濃度を管理する場合、原液タンクからの給液するチューブが藻の発生などで詰まることがあるので、原液タンクの濃度を10倍程度にして、養液コントローラーが頻繁に動くようにする。

⑤ 除塩対策

栽培終了2週間前から、水のみを給液して栽培を続けることで、培地内の余剰肥料成分を無駄なく利用でき、培地内の除塩ができる。排液EC値が原水とほぼ同じになると除塩完了である。除塩が行われない状態で、次作を栽培すると生育障害が起こるので注意する。

(4) 本ば管理

① 光環境

生育初期は、低温で日照時間が短いため、光合成の促進を図る。光合成は、大半が午前中に行われるため、2層カーテンは早朝に開放し、夕方は気温確保のため早めに行う。

② 温度管理

室温は25～28℃を、夜温は14℃を目標に管理する。

③ 誘引、整枝

主枝の下位5節までの側枝と雌花は除去する。側枝は原則として2節で混み合わないよう摘心する。主枝は18～20節で摘心する。整枝作業は早めに分割して行う。
一度に強い整枝を行うと、側枝の発生が劣ることがあるため、勢いのある側枝を2～3本程度残しながら整枝を行う。

④ 摘葉

採光と風通しを図るため、老化した葉や、側枝葉の受光を妨げている葉は早めに除去する。摘葉は1回に3枚までとする。

(5) 病虫害防除

① ベト病

20～24℃で、多湿条件下で発生しやすい。肥料不足などで、草勢が衰えると蔓延する。薬剤の防除は予防または発生初期に行うようにし、雨などの発生しやすい条件では早期に防除する。病原菌は葉裏から進入するため、むらのないように散布する。同一系殺菌剤の連用は耐性菌の発生を促すため、ローテーション散布を行う。

② 灰色カビ病

20℃前後の比較的低温時に発生することが多い、過湿条件下で発生することが多いため、換気を励行し、湿度を低く管理する。

③ うどんこ病

気温が28℃前後で、湿度が比較的低い50～80%の時に発生しやすい。年間通じて被害が認められるが、5～6月頃に多発する。光線量が不足すると発生が助長される。
発病初期では防除が容易であるが、蔓延すると防除しにくい。特に少量土壌培地耕では、湿度が低くなりやすいので発生に注意する。

④ アブラムシ

アブラムシはモザイク病などのウイルス病を媒介するため、対策は重要である。ハウス内は増殖に適しているため、発生が確認されたらすぐに防除を行う。
薬剤抵抗性の回避のため、必ず系列の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(6) 主な生理障害

① 曲がり果

物理的な要因が多いが、生理的な場合もある。日射量、温度、水分、肥料などの要因により起こり、要因が複合することでさらにひどくなる。

② 先細り果

受精障害が主な要因である。日射、肥料、土壌水分などにより障害が助長される。過繁茂の場合にも発生する。

（猪田 有美）